

2018.9.12(水) 第3回学び合いの授業づくり 研究授業!!

「脳みそに汗をかかせる授業～頭を働かせる授業～」

次期学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びの実現というアクティブラーニングの視点が盛り込まれており、本年度から先行実施の時期となっています。本校では、授業改善・学校改革として授業を「教える」から「学び考える」に、生徒の姿を受動的な姿勢から主体的・能動的な姿勢に変えるために市教育研究所の支援を受け「学び合いの授業づくり」に取り組んでいます。従来の教師主導の一斉授業からグループ学習による学び合いを取り入れることで生徒同士で聴き合える関係を作り誰もが「わからないから教えて」と言える授業のスタイルに転換を図ろうとしています。

教えてくれるのを待つのではなく、わからないことに対して「わからないから教えて」という問いを発することから学び合いが出発します。この質問に応える子どもは、つまずいている子どものつまずきを理解し、つまずいている子どもがわかるように説明しなければならないし、その援助の言葉を受けて、わからない子どもは懸命に思考しなければなりません。アクティブラーニングとは、見た目が活発なグループ学習ではなく、必死になって頭を働かせ、よく考える静かな学びなのです。



9月12日(水)に、本年度第3回目の「学び合いの授業づくり公開研究授業・公開研究協議会」として「学びの共同体スーパーバイザー」の馬場宏明先生に本校にいらしていただき、本校の学び合いの姿を見ていただきました。

研究授業では、3年生の国語の授業を本校の中村壮佑先生に提案していただき、本校教員と市教委指導主事の先生方の参観がありました。中村先生の授業では、「批評の眼を生かして作品や文章を読もう～観点を持ち、根拠を明確にして評価する～」をテーマとして二つの俳句を批評することをめあてとして授業が展開されました。



共有の課題 き き あ 訊き聴き合う関係



発表(前を向いて発表させる)

授業では、まずは共有の課題(誰も理解すべき教科書レベルの課題)に取り組みました。グループの仲間同士で訊き合い学び合う姿を見ることができ、ほほえましく、和やかな雰囲気での授業が始まりました。

授業の後半ではジャンプの課題(共有の課題を基礎として挑戦する教科書レベル以上の質の高い課題)に取り組みました。教室は沈黙の中で誰もが黙々と課題に取り組む姿を見ることができました。まさに頭を働かせる授業、脳みそに汗をかかせる授業が展開されました。



書くことで思考が整理される、学びが深まる



黙々とジャンプの課題に取り組む



二句(俳句)を観点明確にし批評する

スーパーヴァイザーの馬場宏明先生からの助言

- ・字を書く子はあきらめない子、学びから逃げない子。

そのために、教員が子供が字を書く時間を確保する必要がある。

- ・発表では、根拠を明確にし説明させること。その場面では、子どもが発表に困っていることを教員が見抜き質問を重ねることで発表者も周りの子どもも学びを深めることができる。
- ・ジャンプの課題の質を下げると学力の高い子は学ばなくなる。質の高い課題に対して誰もが考えようとするのが大事なことがある。



研究協議会、教員も学ぶ